

食 生 活 研 究 部 門

〔活動報告〕

「EAT&スマイルプロジェクト#岐女大」活動報告

—健康・医療分野、子ども・食育分野、食クリエイイト分野—27

河村 茉奈・酒井 杏実

吉池 彩智・大場 君枝

臼井 宗一・土屋ひろ子

水野 幸子・藤田 昌子

第14回 高校生朝ごはんコンテスト31

大場 君枝・海野 由夏

中村 日南・瀬上 佳世

村山 香里・片桐 幸子

板屋 智子・藤田 昌子

オープンキャンパスにおける小麦・卵・乳を含まない弁当の提供33

石原菜南子・小嶋 梨予

小前 結菜・佐藤あかり

塚田 光香・泊 琉衣

平坂 美空・牧島 亜美

牧村 菜々・磯邊 一絵

大場 君枝

「EAT&スマイルプロジェクト#岐女大」活動報告

—健康・医療分野、子ども・食育分野、食クリエイティブ分野—

河村茉奈、酒井杏実、吉池彩智、大場君枝、臼井宗一、土屋ひろ子、水野幸子、藤田昌子

◆目的

2021 年度から学生主導で「EAT&スマイルプロジェクト#岐女大」に取り組んでいる。EAT は、E (enjoy)、A (act for health)、T (trend, traditional) の略語であり、食を楽しみ、伝統的な食文化や新しい情報を取り入れ、健康増進のための活動をしていこうという願いを込めている。地域・食・健康の架け橋となる管理栄養士を目指すことをねらいとした活動である。

「健康・医療分野」「子ども・食育分野」「食クリエイティブ分野」の 3 分野に分かれ、1～3 年までの学生が将来の進路を踏まえ、興味のある分野を選択し活動を行った。

本年度は上記活動に加え、持続可能な社会の実現に向けて、食材確保とその課題を見出すことを目的に学生菜園を運営し、農作物を栽培した。この実体験から、「協調性」や「コミュニケーション力」を修得し、食育に活用できる教材に発展させることができた。

◆活動方法

健康・医療分野では、「食事と運動から健康なカラダへ」をテーマとして活動した。学園祭(さぎ草祭)10月15日、16日の当日は、【朝食改善班】【トレーニング班】【野菜活用班】の3つの班に分かれてパネル発表を行った。また、握力測定や長座体前屈測定、トレーニング体験のブース、健康・医療分野に関するクイズコーナー、活動の様子動画を放映した。来場者の日々の食事・運動について見直すきっかけとなるような発表を目指した。

子ども・食育分野では、「広げよう！食の知識・人との輪」をテーマに活動した。さぎ草祭当日は、食育の授業(SDGs)と体験コーナー(食育カルタ、食育釣り、箱の中身はなんだろう？、食育すごろく)を行った。大学の栄養教育論実習では、食の指導について年代に合わせた指導方法や楽しく学べる工夫なども学んでいる。それらを活かして、食育の授業や体験コーナーを企画した。「わかった！食べたい！」という体験を通して、参加していただいたみなさんに食に興味を持ってもらえるような内容となるよう何度も模擬授業や実際に体験を行い改善した。

食クリエイティブ分野は、「美味しく守る 健康と環境」をテーマに「ミニ懐石」と「商品開発」のグループに分かれ活動を行った。ミニ懐石では「五感で感じる和食」をテーマに食材それぞれの持つ味や食感、見た目の美しさを五感で楽しんでもらえる懐石料理を提供した。大学で収穫した食材(桜、筍、梅、ミニトマト、ブルーベリー、無花果、栗)を使用し、何回も試作を重ねた。商品開発では、「おいしい やさしい つながり」をテーマに、学生菜園で栽培したかぼちゃを使用したカップケーキを販売した。普段食べることのない種やわた、つるを使用し何回も試作を重ね、まるごと食べられるよう工夫した。

◆活動結果・考察

【朝食改善班】は、本学学生の朝食摂取状況を調査して朝食改善に取り組んだ過程と、ご飯とパンそれぞれを主食とした理想の朝食例を発表した。【トレーニング班】は、毎日続けられるトレーニングを考え実行し、トレーニングに伴う体力変化を測定した結果を発表した。さらに、日頃計測することのできない握力測定や長座体前屈測定の体験ブースも設けた。来場者の方からは、「久しぶりに握力を計って現状が良く分かった」などという感想をいただいた。【野菜活用班】は、かぼちゃとさつまいもの廃棄部分には、機能性に富んだ成分があるのではないかと考え、廃棄部分を美味しく食べられるレシピを作成し、過程をパネルにまとめた。レシピはパンフレットにして配布した。また、機能性成分量の違いを確認するため、さつまいもはポリフェノール量、かぼちゃは β -カロテン量の測定方法を検討し、発表した。【運営、外部・イベント班】は、「健康」につなげた取り組みをまとめたパネルを作成し、発表した。また、健康・医療分野の活動に興味を持ってもらえるようなクイズを作成した。【SNS 班】は、活動の様子を撮影し、活動内容を記録した。活動内容は、学科の Instagram に掲載した。また、各班のパネルには掲載していない活動内容をスライドショーにまとめ、さざ草祭で放映した。

来場者へのアンケート結果から、参加者の 50%の人が「野菜活用班」に興味を示しており、特に 20代と 30 代の参加者は 60%以上が関心を示した。

来年度の活動では、今年度の活動をもとに、より深く追求したパネル発表を目指したい。



写真 1. 左：来客者が長座体前屈測定を体験している様子

右：来客者がクイズに挑戦している様子



写真 2. 左：野菜活用班が来客者にパネル発表をしている様子

右：野菜活用班の調理グループがレシピ考案のため試作している様子

子ども食育分野では、「楽しく学ぼう！ミニ授業」、「体験コーナー」を行い、2 日間で、のべ 500 人と小さい子どもから大人の方まで幅広い年代の方々の参加があった。

体験を通して、食に興味を持ち、「わかった！食べたい！」を増やしてもらいたいという思いのもと、どのような内容にすれば来ていただいた方に楽しんでいただけるのかということを考えて活動をした。

ミニ授業では、対象者を小学 3 年生以上と中学生以上の 2 つに分けて行った。授業の途中で、クイズの導入やワークシートを用いて授業らしく自分の考えを書く時間を設けたりして、参加者主体とし、SDGs について楽しく学べる時間にする工夫を凝らしてきた。

体験コーナーでは、主に幼児から小学 2 年生を対象として、「食育カルタ」、「食育釣り」、「箱の中身はなんだろう？」、「食育すごろく」を内容として、体を動かしながら食について興味を持ってもらえる活動にした。

授業、体験コーナー参加者からは、「レンコンの穴が 10 個あることは知らなかった！」、「絵が可愛い！楽しそう！」、「給食を残さず食べたい」という感想があった。また、授業を担当した学生からは、「子どもたちが発表してくれた時にもっと反応すればよかった」、体験コーナーを担当した学生からは、「小学生と幼児とで説明の仕方や対応の仕方を工夫すればよかった。臨機応変に対応する力を身に付けたい。」との声があった。

子ども食育分野の活動を通して、大学生活では経験できない子どもの素直な反応が見ることができ、とても勉強になった。また、子どもや保護者の方に食について指導する楽しさや、難しさを味わうことができた。今回多くの課題も見つけることができ、今後の大学生活で改善していきたい。参加者の皆様から頂いたお言葉を大切に、来年度はさらに皆様に楽しんでいただけるようなイベントを開催できるよう、今回の反省を来年度に伝え、より良いものを作っていけるようにしたい。

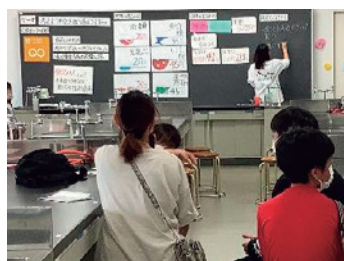


写真 3.子ども食育分野:小学 3 年生以上及び中学生以上に SDGs についての授業の様子



写真 4.子ども食育分野:食育すごろく、箱の中身はなんだろう？の体験コーナーの様子

食クリエイト分野では、さぎ草祭でミニ懷石料理の提供とかぼちゃのカップケーキの販売を行った。「ミニ懷石」では2日間で200食提供した。毎年、大勢の方が楽しみにしてくださるミニ懷石料理だが、前年度とは違い精進料理で使うことがある食材を焼き物や揚げ物に取り入れた。多くの方から帰る際に「美味しかったよ」「お店のような味だった」とお声がけをいただいた。また、大学で収穫した食材の処理・保存の様子をパネルにまとめ、展示した。

「商品開発」では、10月16日(日)にかぼちゃのカップケーキを販売した。1日だけの販売だったが、1部、2部ともに販売前から大勢の方に並んでいただき、すぐに完売した。購入できなかった方もおり、来年度はより多くの方に購入いただけるよう製造・販売の仕方を工夫していきたい。また、商品や紹介パネルをみて、「すごい」「可愛い」などお褒めの言葉を多くいただいた。

今後は、11月に行われるワークショップでの提供に向けた準備や、来年度に繋がるよう今年度の振り返りを行うこととしている。

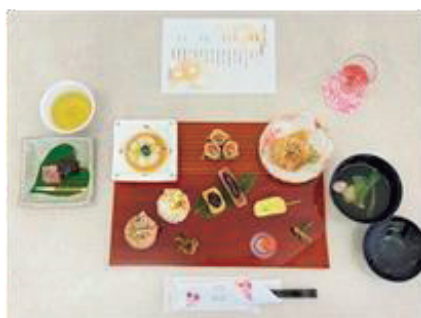


写真 5.食クリエイト分野:ミニ懷石料理と調理の様子



写真 6.食クリエイト分野:かぼちゃのカップケーキと販売の様子

◆謝辞

本活動は、2022 年度健康栄養学科食物栄養学総合演習の一環として実施したものであり、本学学生と教職員のご協力のもと実施することができました。この場をお借りし、皆様に感謝申し上げます。

第 14 回 高校生朝ごはんコンテスト

大場君枝、海野由夏、中村日南、瀬上佳世、村山香里、片桐幸子、板屋智子、藤田昌子

◆ 目的

「朝ごはん」の大切さを広く高校生の皆さんに理解してもらい、朝食作りへの取り組みを通じて欠食を減らすことを目的に高校生朝ごはんコンテストを継続して開催している。本年度は昨年に引き続き、健康で長生きしている祖父母の食に注目し、「元気で長生きできる祖父母の味！～地元野菜たっぷり朝ごはん～」をテーマとして開催した。

◆ 活動方法

朝ごはんメニューは、テーマに添って考えた家族の朝食メニューであることとし、以下の条件を満たす作品を募集した。「家族みんなが元気で長生きできる祖父母の味・料理が 1 品以上ある」、「お米を使う」、「地元食材(特に野菜)を使う」、「野菜を120g以上使う」、「1 食あたり 500 円程度、30 分以内で作ることができる」メニューについて、指定の応募用紙で料理写真、レシピを応募してもらった。7 月 19 日(火)～9 月 12 日(月)まで作品を募集した。そして、9 月 23 日(祝)に学外の審査員 2 名および学内教員 3 名による書類審査を行い、入賞 12 点と入選 50 点を選定した。

◆ 活動結果・考察

岐阜県内 11 校と岐阜県外 20 校(愛知、愛媛、静岡、東京、栃木、富山、兵庫、三重)より応募があった。また、個人応募が 13 点あり、応募総数は 327 点であった。

入賞者のうち、書類審査で得票数の多かった 6 作品の応募者には 10 月 15 日(土)開催の実技審査に参加してもらい、最優秀賞 1 点、健康栄養賞 1 点、アイデア朝ごはん賞 2 点、優秀賞 2 点を決定した。本年もコロナ禍ではあったが、参加者の方には新型コロナウイルス感染症対策の徹底にご協力いただくことができ、無事、実技審査を終えることができた。

本年度は特に、書類審査から実技審査までの期間が短く、準備や練習する期間が短かったにもかかわらず、短時間で手際よく丁寧に料理を仕上げられていた。家族への思いが込められた素晴らしい作品ばかりだった。審査員の先生方も各家庭、地域の食を表現した作品について、大変深く関心を持ちながら、味覚、見た目、調理の手軽さ、食材の使い方、栄養、アイデア、テーマの合致性について、1 作品ずつ審査されていた。審査は、甲乙つけがたいものであったが、表1のように各賞が決定した。

今後も、「地域食材」、「お米」を使った、地産地消を意識したテーマでコンテストを実施することで、自ずと SDGs にも貢献できるようなコンテストを目指すとともに、高校生の皆さんに朝食について関心を持っていただくきっかけとなるようなコンテストを継続していきたい。

表1. 実技審査結果

最優秀賞	健康栄養賞
川島 璃音さん(静岡県立駿河総合高校 2年) 「まごわやさしい献立」	藤 遙果さん(岐阜県立多治見北高校 2年) 「おいしく食べて免疫力アップ!!」
	
アイデア朝ごはん賞	アイデア朝ごはん賞
森 恋雪さん(三重県立相可高校 1年) 「地元しか勝たん!! 栄養満点!」 夏野菜たっぷり健康朝食!	内藤 慎也さん(愛知県立佐屋高校 2年) 「愛知のあったか朝ごはん」
	
優秀賞	優秀賞
武藤 来幸さん(岐阜県立岐阜城北高校 2年) 「愛情たっぷり! 健康朝ごはん」	井戸 美佳さん(済美高校 3年) 「色あざやかな朝ごはん」
	

オープンキャンパスにおける小麦・卵・乳を含まない弁当の提供

石原菜南子、小嶋梨予、小前結菜、佐藤あかり、塚田光香、
泊琉衣、平坂美空、牧島亜美、牧村菜々、磯邊一絵、大場君枝

◆目的

食物アレルギー児は皆と同じ学校給食を食べる機会が少ない。そこで、小麦、卵、乳を含まない弁当レシピを考案し、岐阜女子大学でのオープンキャンパスで提供を行うことで、大量調理に向くレシピ提案を目指した。本年度は、主食の米粉パンについて、ようやく大量調理で安定して米粉パンが焼けるようになったことから、米粉に添加するコーンスターチがパンの物性と食感に及ぼす影響を調べた。さらに、おかずの野菜について苦味があり、嫌われやすい「ピーマン」と「ゴーヤー」の苦味軽減を目指した副菜レシピを考案した。また、給食で人気であるパン粉を使った揚げ物について、安価で食物繊維が多く、大量に廃棄され利用が少ない生おからを乾燥して作成した「おからパン粉」を使った揚げ物を提供するため、パン粉の作成方法を検討した。さらにアレルギー表示 28 品目には、動物性食品が 13 品目と多いことから、ヴィーガンランチを提供するため、主菜に肉を使わない唐揚げ、ハンバーグレシピを考案することとした。

◆活動方法

4 月 24 日には、米粉に「25%コーンスターチを添加した米粉パン」、および隠し味に砂糖を加え苦味を軽減した「ピーマンソテー」を含む「小麦・卵・乳を含まない春野菜&米粉パン」ランチを 100 食提供した。8 月 7 日には、米粉に「コーンスターチを配合しない米粉パン」、および下処理と調理法によって苦味を軽減した「ゴーヤーチップス」を含む「小麦・卵・乳を含まない夏野菜&米粉パンランチ」を提供した。6 月 12 日には、「大豆ミートを使ったハンバーグ」および「高野豆腐の唐揚げ」を含む「小麦・卵・乳を含まない&肉を使わないヴィーガン、ハンバーグ・唐揚げランチ」を提供した。7 月 18 日は生おからを乾燥して作成したおからパン粉を使用した「豚カツ」を含む「小麦・卵・乳を含まない夏バテ予防ランチ」を提供した。8 月 7 日には、おからパン粉を使用した「鰻フライ」を提供した。

◆活動結果・考察

米粉パンについて、米粉にコーンスターチを添加するとキメが細くなり、硬いパンになることが分かった。また、付着性も低くなる傾向があり、オープンキャンパスで歯に付着する感じについて喫食者に尋ねた結果、コーンスターチを 25% 添加した米粉パンを提供した 4 月のオープンキャンパス時に比べて、コーンスターチを添加しなかった米粉パンを提供した 8 月の方が、歯に付着する感じがあると回答した人の割合が多かった。野菜の苦味については、ピーマンのソテーは 9 割の方が苦味を感じず美味しかったと回答した。ゴーヤーチップスについては、7 割の方が全く苦くない、ほとんど苦くないと回答した。肉や卵、小麦を使わないハンバーグは、主材料に大豆ミートも用いた。しかし、大豆ミートのハンバーグは納豆のような匂いが強調され、なかなか提供できる味にならず、苦労した。最終

的に大豆ミートを塩麴に浸し、油で揚げってからハンバーグにすることで臭みのない、香ばしいハンバーグに仕上がリ、喫食者の評価も良かった。唐揚げは、昨年高野豆腐に片栗粉を付けて揚げていた点をコーンスターチに変更することで、カリッとした仕上がリとなった。「おからパン粉」は、生おからを粗目のうらごし器で濾してから、オーブンで焼いて乾燥することで、粒の大ききの揃ったパン粉となり、扱いやすくなった。喫食者には、市販のパン粉と比べてあっさりとして食べやすいという意見があった。

表 1.小麦・卵・乳を含まないランチリーフレットと出来上がり写真

4/24 提供:小麦・卵・乳を含まない 「春野菜&米粉パン」ランチ	6/12 提供:小麦・卵・乳を含まない& 肉を使わないヴィーガン 「ハンバーグ&唐揚げ」ランチ
	
7/18 提供:小麦・卵・乳を含まない 「夏バテ予防」ランチ	8/7 提供:小麦・卵・乳を含まない 「夏野菜&米粉パン」ランチ
	

住 生 活 研 究 部 門

〔活動報告〕

各務原市空き家リノベーション事業202137

黒見 敏丈・大崎友記子

森田 実沙

山県市佐賀空き家リノベーションプロジェクト202139

森田 実沙・大崎友記子

黒見 敏丈

実習棟リノベーション工事202144

大崎友記子・黒見 敏丈

森田 実沙

第13回わたしの住まいのリフォーム・デザイン案コンテスト202146

大崎友記子・富士 霸王

黒見 敏丈・森田 実沙

各務原市空き家リノベーション事業 2021

黒見 敏丈・大崎 友記子・森田 実沙

◆目的

本事業は、深刻化する空き家の増加と人口減少に対応するため、若い世代の移住・定住を促進するために、産官学金の四者の連携協定を結び空き家のリノベーションを進めようとするものである。そのため、本学には建築・インテリアを学ぶ女子大生の若い自由な発想に基づく空き家のリノベーションデザインの提案を求められたものであり、昨年度に引き続き6年目の事業である。

◆活動方法

今年度は、2・3年生の有志19名により授業外で取り組んだ昨年度とは異なり、一昨年までと同様にインテリアデザイン論・実習Ⅰ・Ⅱ(3年生の授業科目)の1つの課題として3年生10名で、市より提示されたモデル空き家3軒のリノベーションデザインに取り組むことができた。

なお今年度は、2018～2019年の空き家リノベーション工事の際にお世話になった建設会社と市からの依頼で、デザイン提案事業に先行して、5月には市内の空き家のリノベーション工事の一部(床の改修工事等)のみのお手伝いにも学生が参画することができた。

◆活動概要・考察

(1)対象空き家物件の現地調査:2021年7月15日(木)

市から4月に提供を受けたモデル空き家物件(3件)の基本図面と写真を踏まえ、リノベーションデザインのプラン作成のための現地調査を行った。教員2名と3年生12名が3軒を巡り、周辺の環境や建物の現状を把握するとともに、細かな部分の採寸等を行った。



写真1 現地調査の様子1



写真2 現地調査の様子2

(2)リノベーションのコンセプトの明確化とデザインの具体化:2021 年 9 月～11 月

インテリアデザイン論・実習Ⅱの授業において、夏休み中に各自が暖めてきたリノベーションのコンセプト等を明確化し、そのコンセプトに基づいてリノベーションデザインの具体化を図り、3D-CADソフトや手描きのスケッチパースによりプレゼンテーションシートにまとめていった。

(3)成果の報告会:11 月 25 日(木) 13:30～15:30

昨年度は県下に新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出されていたため zoom によって各務原市とつないでオンライン開催としたが、今年度は、まん延防止等重点措置中ではあったが本学での対面での報告会を開催できた。

各務原市からは建築指導課から課長以下 4 名と各務原市空き家リノベーション事業推進会議会員の民間事業者 2 名の方々に出席いただき、本学住居学専攻からは教員 4 名とプレゼンを行う 3 年生 10 名が出席した。また、zoom でつないだ別教室にて 1～3 年生もオンライン参加した。

学生 10 名が順番に 10 のデザイン案のプレゼンテーションを行った。今年度も、住宅→住宅のリノベーションだけでなく住宅を学童保育やカフェ、花屋など用途変更をとまうリノベーションに至るまで多岐にわたる提案を行い、思いのこもったプレゼンテーションに市の方々も感激され、その内容も大変好評であった。

学生にとっては学内だけでのプレゼント異なり、緊張感も感じられたが、しっかりと取り組んでいた。ただし、提案の実現性等については市の担当者の方からも厳しい意見もあり、来年度以降の課題となった。昨年度に引き続きこのような機会を提供していただいた各務原市には深く感謝申し上げる次第である。

なお報告会当日は、本学に新聞社 1 社が取材に訪れ、本学学生の取り組みが新聞紙面で広く報じられた。



写真3 報告会の様子1



写真4 報告会の様子2

山県市佐賀空き家リノベーションプロジェクト 2021

森田 実沙・大崎 友記子・黒見 敏丈

◆目的

深刻化する空き家問題に対応するために、空き家を改修(リノベーション)して活用を図る事業が各地で進められている。住居学専攻においてもこれまでに行政と連携し、若い女子大生ならではのリノベーションのデザイン提案や工事に参画し、実績を積んできた。本事業は空き家の再生・活用・維持管理を行っている岐阜県山県市佐賀にある空き家のオーナー様より以前の各務原市との空き家リノベーション連携事業で得たノウハウを求められたものであり、空き家をシェアハウスへ生まれ変わらせるべく2020年6月から2021年8月にかけて活動を行った。本稿では2021年3月以降に行った活動について報告する。

◆活動方法

本事業は、本学住居学専攻の3年生(2021年4月以降は4年生)の有志により、提示された空き家のインテリアデザイン提案を行い、特別プロジェクト実習の授業の一環として工事及び内覧会に携わったものである。

◆活動経緯

2021年2月までに行ったリノベーション工事

10月8日(木):既存クロス撤去、建具等取り外し

10月15日(木)、29日(木)、11月2日(月):窓枠塗装、清掃

11月9日(月):木工事

11月12日(木)、19日(木):室内建具シート貼り、清掃

12月3日(木):木工事

12月10日(木):壁パテ処理、タイル塗装

12月17日(木)、24日(木):壁パテ処理、クロス貼り

1月14日(木):クロス貼り、クッションフロア貼り

1月21日(木)、29日(木):壁パテ処理、クロス貼り

2月15日(月):壁・天井・建具塗装

◆概要・考察

(1)2021年3月以降活動内容

・3月3日(水)、30日(水)、31日(木):フロアタイル貼り、最終仕上げ工事

二階の各個室の床材は学生が提案したイメージに近い材料を採用した。現在のフローリングの上

に木目調のフロアタイルや石目調のコンポジションビニル床材、シールタイプのもの、接着剤が必要なもの等、様々な床材を用いた。全てカッターで切断することができ、特にシールタイプのものは学生でも容易に施工ができた。その他、クロス貼りの仕上げ等も行った。

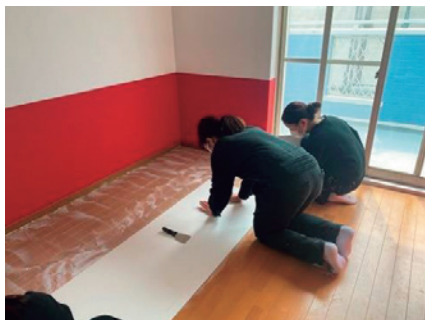


写真1 コンポジションビニル床材貼り



写真2 フロアタイル貼り

・4月15日(木)、4月22日(木):クリーニング

一部電気工事や設備工事等の業者施工のものは残し、クリーニングを行った。リノベーション工事のため、既設のものを再利用も多い。アルミサッシは取り外し高圧洗浄機を用いて汚れやカビを除去した。

・7月7日(水)、8月5日(木):家具組み立て・ステージング

・8月5日(木)、8月6日(金):内覧会

共用スペースの備え付けの家具は、学生が提案、選定を行い、概ね採用され、家具の組み立て、レイアウトを行った。また、8月5日、6日に本学学生、報道機関へ向けて内覧会を実施した。内覧会に向けて、生活イメージが湧くように様々なインテリアエレメントや生活雑貨で各室を装飾した。見学していただいた方に住みたいと思っていただけるような空間づくりを行い、大変好評であったと同時にステージングの重要性を学んだ。

(2) 考察

今回のプロジェクトでは、直面する空き家問題に実際にリノベーション提案・施工という形で携わることができたことは、大変貴重な経験であった。また自分たち学生が住む可能性があるシェアハウスということもあり、学生にとっては、通常の授業課題とは異なり、緊張感と期待感を持ちながら真剣にデザインと施工に取り組むことができた。特に施工面ではプロの指導の下、自分たちで様々な最適な方法を模索しながら、より良い方法を導き出すということができた。このような学びが体験できたことは大変有意義であり、社会に出てから役立つ経験ができた。

このような機会を提供していただいたオーナー様には深く感謝申し上げる次第である。

空家 × リノベ × 住居学 2020-2021

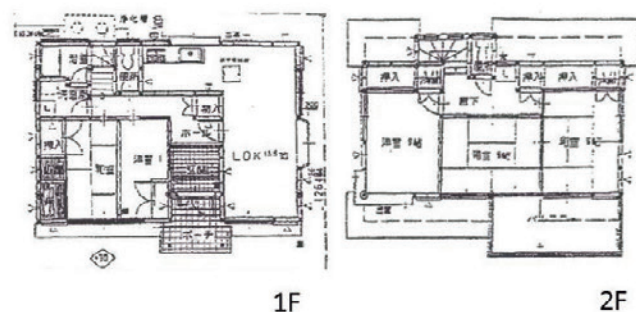
築35年の木造住宅を女性専用シェアハウスへ

Gifu
Women's
University

Major in
Housing
and
Design

深刻化する空き家問題に対処するために、空き家を改修（リノベーション）して活用を図る事業が各地で進められています。R2年度、R3年度は、空き家の再生・活用・維持管理を行っている山県市の空き家のオーナー様より、以前の各務原市との空き家リノベーション連携事業で得たノウハウを求められ、空き家をシェアハウスへ生まれ変わらせるべくデザイン提案と工事に携わりました。

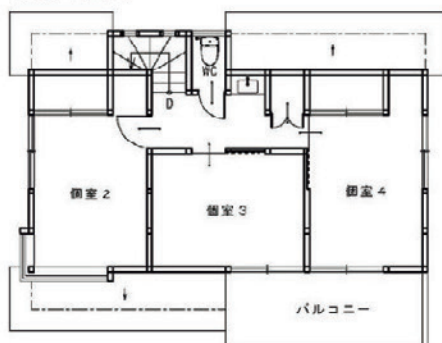
before



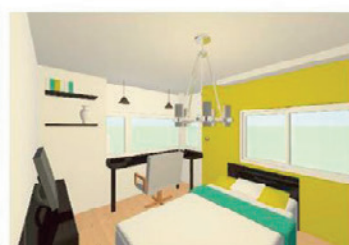
今回は、大きく間取りは変更せず、シェアハウスとして利用しやすくするために、下記のことを提案しました。
 ・LDKを回遊できるような動線にする ・ランドリースペースを設ける ・4つの個室は6畳を確保する
 さらに、女性専用シェアハウスということで、住みたいと思ってもらえるようなインテリアのイメージ提案も行いました。LDKはヘリボンの床とブルーグレーの塗り壁がアクセントになるおしゃれなカフェのような空間に、各個室はそれぞれの個性を引き出すためにあえて様々なインテリアスタイルとしました。

提案平面図

イメージパース

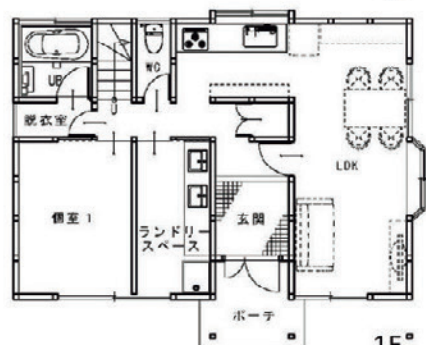


ランドリースペース



個室2 提案例

2F



1F



LDK

空家 × リノベ × 住居学 2020-2021

築35年の木造住宅を女性専用シェアハウスへ

工事の流れ

2020.10月上旬 既存クロス撤去



10月下旬 窓枠塗装・清掃



11月上旬 木工事



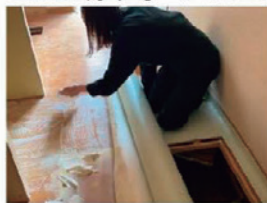
11月中旬 室内建具シート貼り



12月中旬 壁パテ処理



2020.1月中旬 クッションフロア貼り



1月下旬 クロス貼り



2月中旬 塗装工事



3月上旬 フロアタイル貼り



設備類の取付け等の残工事を業者の方が行い、
2021.7月に完成！8月5、6日に完成見学会を行いました。
工事中を含め、新聞社にも多く取りあげていただきました。

※左写真 2020年12月10日撮影



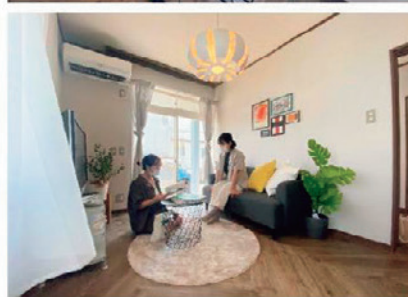
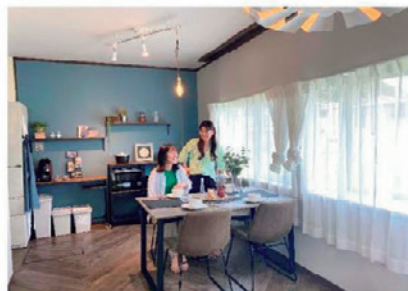
空家 × リノベ × 住居学 2020-2021

築35年の木造住宅を女性専用シェアハウスへ

完成写真

LDK

Gifu
Women's
University



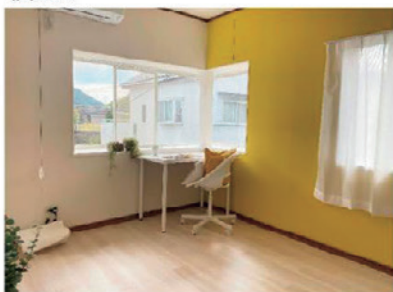
ランドリースペース



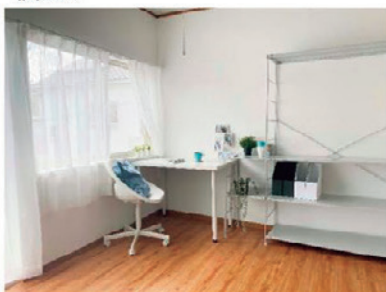
個室1



個室2



個室3



個室4



実習棟リノベーション工事 2021

大崎 友記子・黒見 敏丈・森田 実沙

◆目的

特別プロジェクト実習では、平成 16 年度以降、実際の建物の企画設計から建設、及び大学施設のリフォーム提案、改修工事等を 1～3 年生が協働で実施するプロジェクトを展開してきている。本プロジェクトもその一環として実施しているものである。

◆活動経緯

(1)昨年度までの活動

令和 2 年 4 月～5 月：新型コロナウイルス感染症対策のため大学閉鎖措置が取られ、特別プロジェクト実習はコロナ対策として学年ごとの作業とし、6 月 18 日から作業を始めた。

令和 2 年 6 月中～7 月末：土間部分とフローリング部分の床組み工事の継続と南側外壁板張り工事をおこなった。

令和 2 年 10 月～12 月末：内装壁の壁下地として胴縁、石膏ボード張をし、パテ処理後漆喰塗りの左官工事に挑戦した。並行して南側の残部と西側の外壁板張り工事をおこなった。

令和 2 年 12 月中～12 月末：屋根面と今回外壁の張替えをしない東側、北側の外壁の高圧洗浄をおこなった。

令和 3 年 1 月：室内のフローリング張りを始めた。

◆活動概要・考察

令和 2 年度でリノベーションの完成を目指していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、人数を制限して作業を実施したことで完成には至らず、次年度も引き続き取り組むこととなった。

(1)工事作業

4 月 22 日(木)～5 月 27 日(木) フローリング張りと巾木取り付けをおこなった。

5 月 13 日(木) 屋根塗装をおこなった。

6 月 3 日(木)～6 月 17 日(木) 流し台の制作と北・東面の高圧洗浄後、外壁塗装(4 面)をおこなった。

6 月 24 日(木)～7 月 29 日(木) 既存バーベキューコンロ台の撤去、外構整備など、西側ウッドデッキ工事の準備作業と、ウッドデッキの独立基礎づくりをおこなった。

9 月 30 日(木)～12 月 23 日(木) 束石づくり、束、垂木、梁、ウッドデッキ材の加工と防腐材の塗装をおこない、床組み、屋根下地の作業を進め、波板の屋根の取り付けをおこなった。

1 月 13 日(木)～1 月 27 日(木) 屋根は完成し、ウッドデッキ材も 1/3 まで張ることができ、今年度の作業は終了した。



写真1 フローリング張り作業の様子



写真2 外壁塗装作業の様子



写真3 独立基礎づくりの様子



写真4 ウッドデッキ作業の様子

(2)考察

今年度もコロナ禍のため学年ごとでの作業となり、本来特別プロジェクト実習での学修目的である、実社会の疑似体験として自主性、協調性、実行力、マナー等を養い、多様な世代・属性の方々とのコミュニケーション力の向上を図る機会として達成されなかった部分はあったと思われる。次年度は、残りのウッドデッキ張りと設備工事、室内の残工事で一応建物のリノベーション工事が完成するため、コロナの状況にもよるが、実習棟の設計、建設に関わった卒業生を招待して、交流を深める機会を設けたい。しかし、各自の作業回数としては少なくなったが、建設実習を継続的におこない完成が近づくことで、協同してのものづくりの楽しさは体験できているようだ。また、大工さんや職人さんから直接教えていただくことが、これから学ぶ知識の裏付けとなることを期待したい。そして、知識だけではなく大工さんや職人さんの仕事に対する準備や道具の取り扱い、後片づけにいたる振舞なども学び、一緒に働く人への思いやりや気配りなどの社会性を身につけることも目指してほしいと思う。

第13回わたしの住まいリフォーム・デザイン案コンテスト 2021

大崎 友記子・富士 霸王・黒見 敏丈・森田 実沙

◆目的

建築及びインテリア関係への進路を選択する動機づけとなることを期待すると共に、大学と高等学校等が連携し多様な学習機会を提供する一つの活動の場として『わたしの住まいリフォーム・デザイン案コンテスト』を開催している。このコンテストは13回目となり、次の活動方法に示すとおり技術・デザイン部門とアイデア・デザイン部門の2部門で実施した。

◆活動方法

今年度は「with コロナを経て家族のつながりを考える ―新しい生活様式をふまえた住まい方―」をテーマとした住まいを対象に、「技術・デザイン部門」と「アイデア・デザイン部門」の2部門でリフォームの提案を募集した。各部門の優秀賞、奨励賞を選出し、11月6日(土)に賞状と副賞の交付を行い、入賞作品は、岐阜女子大学家政学部生活科学科住居学専攻 HP に掲載すると共に、大学内にて展示を行なった。

(1) 応募期間 2021年8月23日(月)～9月19日(日)

(2) 募集内容 住まい全体、あるいは住まいの一部を対象として選び、現況の様子あるいはリフォーム前(写真あるいは図)と、あなたの考えるリフォーム後の構想図(平面図<寸法記入不要>)・立面図・透視図など)にて表現

(3) 応募資格 高校生・短期大学生

(4) 作品応募規定

A:技術・デザイン部門

提題された住まい(本学 HP 掲載)を対象にして、「with コロナを経て家族のつながりを考える ―新しい生活様式をふまえた住まい方―」をテーマとしたリフォーム提案を募集。新型コロナウイルスの影響で「おうち時間」が長くなったからこそ、家族のつながりやそれぞれが快適に過ごすための住まいであるかを評価

B:アイデア・デザイン部門

「with コロナを経て家族のつながりを考える ―新しい生活様式をふまえた住まい方―」をテーマに、楽しい発想や斬新な図面表現、身近な実践例などを評価(リフォーム前の状態を図面や写真等で表現すること)

(5)審査員

今田太一郎 一般社団法人 日本建築学会東海支部 岐阜支所長

独立行政法人 国立高等専門学校機構 岐阜工業高等専門学校 建築学科 准教授

津川 文江 公益社団法人 岐阜県建築士会 岐阜支部長

株式会社創建 取締役 一級建築士

大崎友記子 岐阜女子大学家政学部生活科学科住居学専攻 教授・専攻主任・一級建築士

富士 霸王 同上 教授・岐阜女子大学学生部長・家政学部長
一級建築士・岐阜県建築審査会会長
黒見 敏丈 岐阜女子大学家政学部生活科学科住居学専攻 教授
大学院生活科学研究科長・一級建築士
森田 実沙 同上 講師・一級建築士

◆活動概要・考察

今年度はコロナ禍を期に大きく変わったライフスタイルに着目し、「with コロナを経て家族のつながりを考える ー新しい生活様式をふまえた住まい方ー」をテーマとして、コンテストを開催した。参加校も岐阜県はもちろん、長崎県、山口県、長野県、静岡県などの高等学校から、技術・デザイン部門に 32 作品、アイデア・デザイン部門に 80 作品、合計 112 作品と昨年を上回る応募があった。また岐阜県建築士会岐阜支所様より、本コンテストの趣旨にご賛同をいただき、今回も建築士会賞を選出し、技術・デザイン部門では、建築士会賞1点、優秀賞3点、奨励賞4点、アイデア・デザイン部門では、優秀賞5点、奨励賞3点の入賞作品、両部門を通して学校賞を1校選出した。

コロナ禍により、住まいは寝に帰る場所、1日の終わりにゆっくり寛ぐ場所から、もっと様々な暮らしの場面を包み込む空間であることを考え始めたように思われた作品が多数出展された。自己の楽しみを培う場所、家族や地域と豊かに繋がりあう場所、自己表現の場所など、住まいはそのような場所であるべきではないかという、思いを感じ取ることができた。かつての住宅は、地域の人を繋ぐ場であったことを、新しい時代に新しい世代が、新しい暮らしの場として提案されたことは、これからの住まいを考える上で大きな成果であったと思われる。



写真1 表彰風景



写真2 表彰式記念写真

岐阜女子大学 衣食住生活研究センター 研究・活動レポート
第 7 号

発行年月日	令和 4 年 12 月 26 日発行
発 行 者	岐阜女子大学 〒501-2592 岐阜市太郎丸 80 番地 TEL058-229-2211
印 刷	ヨツハシ株式会社 〒501-1136 岐阜市黒野南 1 丁目 90 番地 TEL058-293-1010